

平成 30 年 9 月 28 日
 県民生活・環境部環境企画課

人里に近い地域に分布するコナラ等は不作～並作となっており、ツキノワグマの出没に注意を呼びかけています。

- ツキノワグマの秋のエサとなるブナの実等の豊凶状況を調査しました。その結果、
 - ・ 主に奥山に分布している、ブナは並作～豊作、ミズナラは不作～並作でした。
 - ・ ブナに比べ人里に近い地域に分布しているコナラ等（コナラ、クリ、オニグルミ）は、不作～並作でした。
- このためコナラ等の生育する人里から里山を中心に、ツキノワグマがエサを求めて活動する可能性があり、注意が必要です。
- 秋の行楽シーズンを迎え、県では、市町村等と連携し、人身被害未然防止に向け、広報等により注意を呼びかけています。

<調査結果>

- 調査期間 平成 30 年 7 月 17 日～8 月 31 日
 調査地点 全県 439 地点（佐渡市及び粟島浦村を除く）

- 調査結果（県全体）

ブナ	ミズナラ	コナラ	クリ	オニグルミ
並作～豊作	不作～並作	不作～並作	不作～並作	不作～並作

凶作：結実は認められない
 不作：わずかに結実
 並作：樹冠全体にまばらに結実
 又は一部に結実
 豊作：樹冠全体に密に結実

※1 調査結果に対する専門家（新潟大学農学部箕口秀夫教授）のコメントは別紙のとおりです。

※2 調査結果の詳細はHPに掲載

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/kankyokikaku/1319666477308.html>

本件についてのお問い合わせ先

県民生活・環境部環境企画課
 課長補佐 五十嵐
 (直通)025-280-5691 (内線)2691

別紙

<新潟大学農学部 箕口秀夫教授のコメント>

ツキノワグマは冬眠する間、飲まず食わずで過ごすが、栄養状態の良い雌クマは、出産、子育て（授乳）をする。そのため、冬眠を控えた秋季にはひたすら餌を探し、食べ、栄養を蓄える。その結果、秋季には栄養価が高いブナ科の樹種を中心とした堅果類（ドングリ、木の実）を求め、かなり広い範囲を移動するとともに、堅果類が多く実っている林に多くのクマが集まってくる。

今年度は、

- 奥山に分布するブナ、ミズナラは、ブナが下越・中越で不作～並作、魚沼・上越で並作～豊作となっている。ブナは全県的に不作の状態が過去2年間続いたが三年ぶりの堅果生産が期待される。ミズナラは堅果全域で不作～並作となっている。これらのことから、ブナ・ミズナラが多く生育する奥山地域においてツキノワグマの餌条件は過去2年間と比較して良好といえる。あわせて秋季の餌条件が良かったことから、来年度は親子連れのクマが多く出現することも予想される。

一方、

- 里山から人里にかけて分布し、他の堅果類に比べて早く成熟・落下するクリとオニグルミは、クリが魚沼の並作～豊作を除いた地域で不作～並作、オニグルミが全県下で不作～並作である。

里山に最も広く分布するコナラは、中越の凶作～不作を除いた地域で不作～並作となっている。

このことから、里山から人里にかけてツキノワグマの餌条件の善し悪しは地域、場所（林）によってムラがあるといえる。

以上のことから、

- 今年のツキノワグマは、ブナ堅果不作による奥山集団の移動は起きにくいものの、里山集団は早い時期から結実しているクリ、オニグルミが生育する場所（林）を中心に活動し、人里にも出現する可能性が高い。その後は、人里を囲むようにして広く分布しているコナラ林で活動するため、クリ拾い、クルミ拾いなどの収穫作業、キノコ採りなどの行楽には特に注意が必要である。

なお、今年は極端な空梅雨、夏季の本州への大型台風襲来などの異常気象が続いているため、ブナを含め、今後の堅果成熟・落下の状況、ひいてはツキノワグマの餌条件が大きく変化する可能性がある。これらの変化はツキノワグマの餌条件を悪化させる方向に働くため、堅果の成熟・落下について継続的な注意が必要である。

<クマ出没情報の提供>

新潟県ホームページで最新のクマ出没情報を提供しています。

「にいがたクマ出没マップ」別紙

(URL <http://ngt-webgis.jp/kuma/>)